

女子大生のコラージュによる表現と服装行動との関連 京都女子大短大（非） 紀 安子

目的 被服デザインの表現教育の1つにコラージュがある。写真や絵を切り抜いて台紙に張り、作品に仕上げるコラージュは服飾造形の表現の目標とするモチーフの把握が具体化しやすく、表現しようとするイメージの作成が容易であるという利点がある。本研究では、女子学生のコラージュの作品を構図、題材、色彩について分析し、性格（Y・G法）との関連を検討した。さらに、服装の意識・態度について質問紙票によるアンケート調査を実施し、服装行動についてもあわせて比較、検討した。

方法 調査は京都の女子大生 185名を対象として、1990年6月に行った。調査項目は、基本属性、生活要因、ファッション意識・態度、着装イメージ、性格、コラージュの作品である。性格調査は矢田部・ギルフォードテストの用紙を使用した。コラージュの題材は自由題目とし、具象の形態を用いた。自分のイメージする形態をグラビア雑誌より切り抜き B4のケント紙に貼付し、作成されたものを用いた。分析は、単純集計、クロス集計、因子分析、数量化Ⅲ類、クラスター分析を行い、コラージュの作品の分析、性格、ファッション意識との関連を検討した。

結果 因子分析による因子負荷量の高い項目のファッション意識、性格、コラージュの題材の12項目についてクラスター分析（ワード法）を行い類別化を試みたところ5タイプが類別された。5タイプで構成比の一番多いものは36.3%で、性格は不安定積極型が多く、ファッション意識はやや積極的で、コラージュの題材はヘルシー志向（生活用品、食物、スポーツ）であった。他のタイプも生活状況やファッション意識に差異が認められた。